

あしょろ・ハードサポート通信

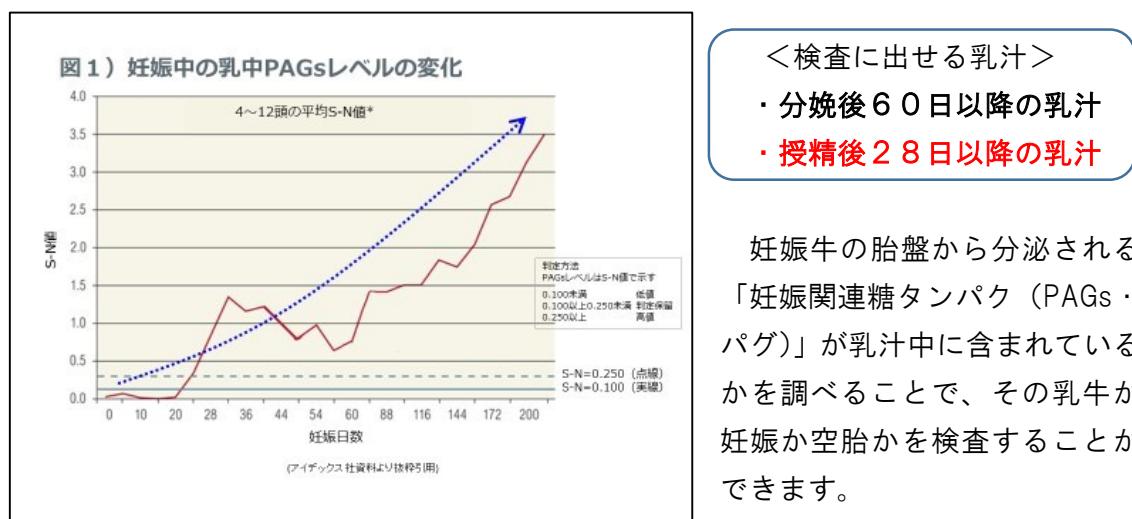
収穫シーズンを目前にして雨が続き、気温が上がらず肌寒い6月です。牧草の伸びも、圃場によってマチマチの様子ですし、収穫も思うように進んでいません。酪農家さんとお話していると、多くの方から焦りやイライラ、不安、といった落ち着かない気持ちが伝わってきます。雨が明けたら、くれぐれもケガや事故のないように収穫作業を進めていただけたらと思います。

◆ 乳汁での妊娠検査サービス

早期妊娠鑑定（妊娠鑑定）をして、できるだけ早く妊娠マイナスの牛を見つけることの重要度はとても高いものです。妊娠鑑定を行っていても、授精後50～60日が経過し、数サイクルを失った後でマイナスがわかり、そこから再授精、といったケースも見かけます。このようなロスが積み重なると、繁殖淘汰牛や分娩間隔が延びた過肥牛が増えたり、分娩予定頭数が減ってしまったりと、じわじわと酪農経営にダメージを与えます。

そのような背景の中、乳汁に含まれる特定の成分の有無を調べることで、妊娠か空胎かを検査できるサービスが日本国内でも提供されるようになりました。酪農家さんにとって大きなメリットのある検査です。組合員さんにはご案内済みですが、このたび足寄町農協さんではいち早く、地域ぐるみでこの検査を行う仕組みを作りました。

◆ 授精後28日以降の乳汁での検査が可能



グラフは妊娠中の乳中PAGsレベルの変化で、妊娠28日目のあたりからPAGs値が上がっていくのがわかります。

◆ 乳汁サンプルを農協さんで取りまとめて、ラボへ送ります



写真のマイクロチューブに乳頭清拭後の牛の乳汁を取り、東京のアイデックス・ラボラトリーズ社に送付すると、検査結果がFAXで届きます。検査の定価は1本税抜1,000円+送料ですが、10本まとめると送料無料になります。年明けから町内の青年部世代の酪農家さんでモニターしていただき、妊娠検査の精度には充分な評価を得ていましたが、1戸で10本集めるのに2~3週間かかるてしまうことから早期妊娠検査のメリットが薄れる、という難点がありました。

そのため今月から、飼養規模に関わらず多くの組合員さんに早期妊娠検査の恩恵を受けていただけるようにと、足寄町農協さんが乳汁サンプルを受け付け、アイデックス社へまとめて発送する運びとなりました。このような地域ぐるみの乳汁での妊娠検査の取り組みは、日本で足寄がトップバッターです。

◆ 検査の依頼から結果報告までの手順（16年6月時点）

- 1) シールに検体番号を書き、マイクロチューブに貼り付けます。チューブ上部のフタにサンプル番号を記入します。
- 2) 検体番号が貼られたチューブと同じ番号の牛の乳汁を採取します。
- 3) 検査依頼書に必要事項を記入し、乳汁サンプルを入れる専用袋に同梱します。
- 4) サンプル受付

集乳ローリーでの回収	平日のみ	---
生乳センター持ち込み	平日：15時まで	土日祝日：11時まで

- 5) 農協さんで受付後、指定の発送日（月/火/金/土）にアイデックス社へ発送します。
- 6) 乳汁サンプル到着後、2営業日以内にアイデックス社から結果がFAXで届きます。

◆ 注意事項

- ・サンプルを採取するとき、ほかの乳汁と混ざらないようにご注意ください。
- ・乳房炎の乳汁は採取しないでください。
- ・サンプルの腐敗など状態が悪い場合、正確な結果が出せないことがあります。
- ・冷凍サンプルは受付可能です。
- ・サンプル発送日に10検体集まらなかった場合は送料が発生します。送料は検体数割で案分して請求いたします。

☆出し方やこれまでの検査結果の傾向など、詳細はJA 営農部のご担当者、HS 久富までお問い合わせください。

（久富聰子）